

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392200014		
法人名	医療法人 森医院		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	岡山県赤磐市多賀1225-1		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成25年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療機関との連携により、本人、家族の希望に応じて看取りを行っています。	外出援助
-------------------------------------	------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【笑顔と暮そう】の理念のもとで家庭的な雰囲気でのびのびとした生活が窺えました。職員一人ひとりが質の向上を目指しながら日々実践に取り組み、より安心・安全な暮らしへの支援に努めています。母体が医療法人で医療連携も取れており入居者・家族の安心に繋がっています。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニット、業務日誌に掲示し、常に見えるようにしている	職員の個人ファイルを開くと自筆で書き綴られた理念が目に入ります。理念「豊かな自然に囲まれ(省略)暖かさを感じながらその人らしく生活していただきたい」全職員の理念への取り組み・理解と共有が窺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に一度地域ボランティアの方に来ていただき、リトミック・演劇をしていたりしている	地域ボランティアによるリトミック・演劇・楽器演奏・手まね、歌など(大変好評)の他、保育園児と先生と車椅子の入居者皆さんも参加しての芋ほり、盆踊りなど、又赤坂社会福祉協議会と情報交換し協力し合って地域との繋がりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、入居者の様子・行事を報告している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度地域包括、民生委員、区長を交え話をしている	運営推進会議は軌道に乗っている。行政、赤坂教育長、区長、民生委員、理事長も必ず出席し開催している。会議での意見を実践、評価に活かしている。(今現在家族参加が2、3ヵ月無く苦慮している)	運営推進会議への家族の不参加との事ですが今後も実施内容を説明され、呼び掛けを継続してみてください。協力者が在ることを願っています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の方に参加していただいている。疑問は市町村担当者に尋ねている	事業所側より積極的に市担当者と協力体制に取組んでいる。社会福祉協議会とも常日頃関係を築く、体制作りにも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全面を考え窓、玄関は施錠している。身体拘束においても安全面を第一に考え対応するように取り組んでいる	実際窓を開けての出入りもあり、具体的な行為を正しく理解する為細かく観察し入居者の安全面について検討し、話し合い、身体拘束「よりよいケア」への実践に工夫しながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヒヤリハットを記入し、ケア会議で検討し共有している。外傷、打ち身についても申し送りしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	きちんとは把握出来ていないが、なんとなく理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明し、署名、捺印していただく		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	広報誌で生活を知って頂いたり、面会時、ケアプラン説明時要望をきいている	家族の意見、要望を聞く機会を設け大切に受け入れ、広報誌も活用して反映させている(最近家族が遠出するよりグループホーム内で演芸会、談話等職員が、家族・入居者の仲間に入ること話題が盛り上がり大変喜ばれた)。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ケア会議を実施し意見をだし、会議記録を残し共有している	自己ファイル作成を活かし、会議前個々の自分の意見を書き提出、検討し議題に取り上げている。思いつきの会議でなく「会議は会議」と提案があり、即反映させている。。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	配慮してくださっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加、他施設との交流をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への見学、交流をさせて頂き情報交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時、本人・家族に困っていること、要望を聞き情報を共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅での生活と同じようにしていけるように努める		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時、聞き取りをしている。何が必要で支援しているか分からないといけないうかが検討し提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事、行事を一緒にしていき寄り添った生活、なじみの関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活状況を報告し、知って頂くようにしている。面会に来て頂くように伝えている。受診は家族にお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族に面会に来て頂いている。御家族に近所の方でも面会に来られた場合どうするか尋ね、了解をえた場合は会って頂く	友人、昔馴染み、家族関係等の面会を大切にし関係が途切れないように努めている。契約時チェック表を作成し家族、本人の人格を尊重し個人情報大切にした取り組みが窺えた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、同じ空間で過ごして頂き、入居者同士の関係を大事にしている。雰囲気を感じて頂く		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族、関係スタッフへの情報提供している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で把握していき、声かけしながら対応している	一人ひとり日々、体調により生活リズムも違うため希望、意向を見出す時間を持ち把握に工夫しながら支援に努めている(昼食後約30分位職員と雑談するなど)そうすることで笑顔も見え、涙する笑顔もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時、本人・家族より生活歴を聞き、入所してからも在宅での生活を聞きながら行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察、コミュニケーション、申し送り、ケア会議で共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネを中心に話し、計画後家族への説明となっている。同意欄に希望等記入し、署名・捺印をもらっている	介護計画作成も現状に即した計画に努めている。本人の状態等介護従事者の自己ファイルで状態を把握し皆で検討している。特に本人、家族の要望を第一にしている。必要な関係者の情報や、同席する事もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を個人記録に記入し、申し送り・ケア会議の中で共有、統一をはかっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	声かけしながら進めている。状況によっては家族にもケアの経過・おすすめ方を説明している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供神輿、幼稚園児との交流。2ヶ月に一度ボランティアの方による催しを取り入れている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外来・専門医受診時、家族の意向を聞き今までかかっていた病院への受診、同行し一緒に話を聞くようにしている	家族の意向を基本にししながら、外来、専門医受診、歯科についても6ヶ月毎に全員受診、又薬剤師同行、薬の説明も徹底指導、訪問看護連携もあり緊急、夜間を含め医療が適切に受けられる支援がされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時、看護師訪問時、状況報告し日々の様子を伝えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を作成し、家族に状態を聞き、退院時には状態確認に行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・スタッフ・家族とで話しあい、意向を聞きながらすすめていく	重度化、終末期、急変、看取り等主治医、家族と相談しながら状況を把握し、マニュアル、ケア会議等再三確認し検討している。医師の説明により納得した上、方針を話し合い共有した統一的支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成、ケア会議、再確認できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練をしている。入居者も一緒に参加し、消防署・地域消防団の協力を得て実施している	避難訓練を実施している。運営推進会議での発案で区長さん協力により放水を体験、また地域消防団との協力体制も出来ている。電気製品の取り付け、加湿器メーカーの確認等細かい事までも注意がなされている。	地震・水害・火災と年毎に災害の種類は違いますが様々な災害を想定した対策と避難訓練に取り組まれ、協力者に声をかけ、これからも継続していかれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者の状況に合わせて声かけを行っている	それぞれの立場や場面で状況にあわせた声掛けを心がけている。呼び方は家族と話し合い理解と了解の下で行っている。プライバシーを損ねない言葉使いを目指しサービス向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけし、何をするのか、思いを聞かせて頂く。個別レクについては尋ね、見てもらい決めてもらうこともある		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけし思いを聞かせて頂く、添っていけるように努める		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	習慣、身だしなみを大切にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることが減ってきているが、出来ることをして頂くようにしている	春、夏の野菜収穫、秋、冬は芋類が多く菜園担当者による見事な出来栄は入居者の食材やおやつに又、四季に咲く花も食欲の助けになっています。役割分担も無理の無い様子が窺えました。外食支援(レストラン)は皆さん楽しんでます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェックし記入している。好き嫌い、アレルギー、疾患もあるので個々にあわせ調節している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアしている。2ヶ月に一度、歯科医に往診に来ていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し、把握している。夜間おしめ使用している方もいるが、日中はトイレ誘導している	ご本人の状態に注意しながらケアし、夜間おしめ使用の方への対応に気を付けている。交換により起きて寝られない方、直ぐ寝られる方と支援の細かい気配りと工夫が窺えた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ケアボックス、体操をとりいれている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を決め対応している。部分浴を取り入れている	衛生管理に気を付け入浴拒否者の方への支援方法は多種多様で、週2回、清拭、部分浴と随時個々にそった柔軟な入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を防ぐ為、日中はホールで過ごす。状況によって、臥床時間をもつようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更になった場合、申し送りをし伝えている。薬については、ホーム管理している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	話をしながらすすめていく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出において、家族にお願いすることもあがるが、状態により難しくなっている	買物や食事など家族による外出支援が行われている。地域での季節の行事に介護度の重い人達や車椅子使用の方達も全員で出かけられる支援を望んでいる。	年間行事計画に入居者全員が参加できる身近な場所で、家族も参加して職員と現在より密に交流がなされることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきを書くことができる方は書いていただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節(四季を感じれるように)・行事がわかるように雰囲気づくりをしている	春夏秋冬の共同作品が色彩豊かに飾られ来訪者も心おどらせるようでした。季節を感じさせる共用空間づくりでゆっくり過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの座り方については、スタッフが配慮している。独りになりたい方は居室で過ごして頂いたり、話を聞いて対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ってきてもらえるようにしている	使い慣れた備品で個性を活かした配置がされ本人が安心して過ごせる居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分かるように表示している		